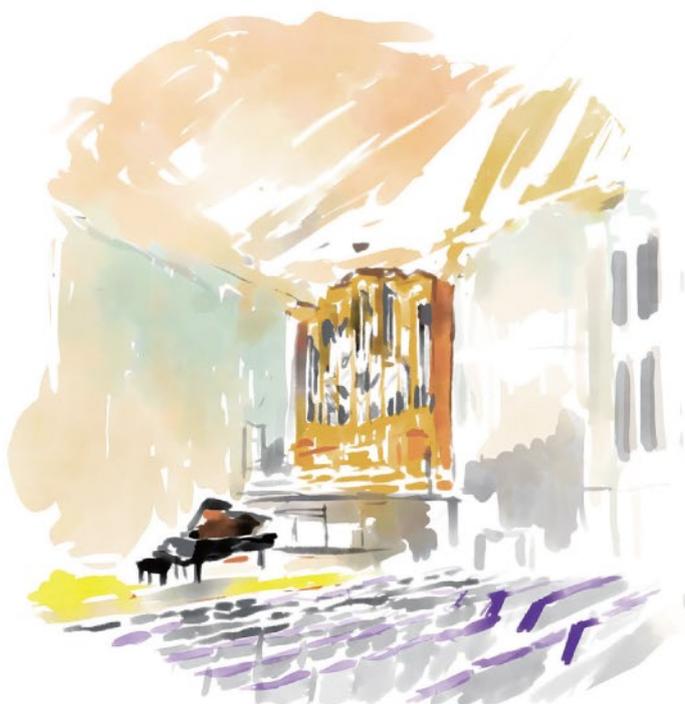


宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



15

少林寺拳法部 / 軽音楽部

サークル紹介

13

卒業生の仕事場訪問

My way MG way

09

CAMPUS NEWS

07

特集

特集1…タグライン「愛のある知性を。」
特集2…大学祭(オンライン開催)

05

学問へのいざない

「理論と実践を両立し、生きた経営学」を学ぶ
「日本近代文学を魅力的に読み解く方法」を学ぶ

01

誌上ゼミ

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支援、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

サークル紹介 01

少林寺拳法部

- 部員数: 10名
- 活動日: 火・木・土曜日
- 活動場所: 大学体育館、剣道場
- Instagram: @mgwu_shorinji

少林寺拳法は心と体を成長させるもの

少林寺拳法は護身術と精神の鍛錬を併せ持った武道です。自分や他人を守るための力を養います。それらの技術の向上や、大会に向けての演武を日々練習しています。少人数の団体なので、学年や学科問わず仲が良いのも特徴です。

お揃いのユニフォームやコスチュームを着るサークルもありますが、少林寺拳法部は白の道着と帯が基本。学内で道着姿の人がいたら間違いなく私たちです!

世代を超えた交流の多さも魅力

体を動かすのでリフレッシュになりますし、先輩やたくさんの先生方と関わるので、言葉遣いや礼儀作法も身に付きます。他大学や団体との交流も多く、東北地方の少林寺拳法部が集まった合宿ではキャンプファイヤーなどをし、とても楽しかったです。

もっとメンバーを増やしたいので、少林寺拳法の楽しさをどんどん後輩に伝えたいです。大会でメンバー全員が結果を出せるよう、頑張っていきます。



在学生へ向けて
演武を披露



2020年の県大会の
演武では2名が入賞!



部長
鎌田 祐衣さん
(心理行動科学科3年)

サークル紹介 02

軽音楽部

- 部員数: 43名
- 活動日: 火・水・金曜日
- 活動場所: 学生センター3階 小会議室
- Instagram: @mg_singmates



一番町のライブハウスでの
定期演奏会



Instagramで
配信したセタライブ



部長
永沼 佑彩さん
(心理行動科学科3年)

音楽は様々な場所で、様々な方法で楽しめる

例年、4月のたんぼライブやセタライブ、大学祭、他大学との合同ライブなど1年を通してたくさんの演奏機会がありますが、活動自粛のためSNSで動画を配信しています。今年のセタライブを無観客で生配信したところ、メンバーが家族や友人に拡散してくれたおかげで300人近い方々に視聴していただけました! 宮学生はもちろん、学外にも私たちの音楽が届けられたと実感しています。

個性的なメンバーを繋ぐ音楽の力

共通の音楽の趣味の人たちでバンドを組むことが多いですが、他のメンバーが好きな音楽に興味をわくこともありますし、知らない曲を演奏することで新たな音楽に触れることができます。一人ひとりが全力で音楽を楽しんでいる、素敵な仲間たちです。

卒業しても、メンバー全員が「軽音楽部で良かった」と思えるようなサークルでありたいと思っています。

@miyagaku_pr

@mgu.ac.jp

@miyagaku_pr

プロの演奏家による実技指導で 確かな技能と人間力を磨く コロナ禍で改めて感じた、音楽が持つ力

コロナ禍での実技指導の難しさ

及川 本日は、10月16日に開催予定の「ソロ・アンサンブル発表会」に出演する学生5名にオンラインで集まっていただきました。昨年から続くコロナ禍で、思うようにステージ経験を積むことができず、もどかしい思いをしている方も多いでしょう。オンラインでの授業が中心となる中で、学生の皆さんが感じていることを聞かせてください。

三澤 私はオーボエ専攻ですが、おそらくどの楽器でもリモート授業では音色の聞き分けが難しいのではないかと感じます。先生の演奏はパソコン越しでももちろん素晴

らしいのですが、やはり対面の指導で直接聴く音とは、感じ方が全然違います。

渡辺 私も同じです。リモート授業の後で対面授業の機会があると、副島先生の奏でるクラリネットの生の音色に感動します。

吉村 コロナ禍では、どうしても家で自主練習することが多くなってしまっているので、長時間大きな音を出すことが難しく、自分でも気づかないうちに音が小さくなっていくことがあります。その分、基礎練習を欠かさず、ホールで演奏しているイメージを維持するようにしています。

及川 防音設備のあるご家庭はめったにありませんから、遠慮してしまうのは仕方

がないことかもしれません。さらにオンラインでは必ずタイムラグが発生するので、画面越しで同時に演奏することもできません。また、スマートフォンで授業を受けている学生が多いので、こちらがピアノを弾いて見せたとしても、手の動きは見づらく、音の強弱も補正で平均化されてしまいます。いろいろと工夫してはいますが、指導する側も戸惑うことばかりです。

副島 私がクラリネットを指導するときは、「音を響かせる」ことを強調するのですが、オンライン授業ではそのニュアンスがなかなか伝わりません。やはり広い場所

で音を響かせる練習をすることが必要だと感じます。

岡崎 副島先生がおっしゃった「響き」については、私もオンラインでは伝わりにくい

と思っています。自主練習の日々が続くと、自分の耳だけが頼りになってしまい、「この曲はこの方向性でいいのかな」と不安になることもあります。早く新型コロナウイルスが終息して、対面授業が増えてほしいです。

大滝 管楽器を専攻している身としては、



及川 浩治 教授



三澤 真由さん



渡辺 凜奈さん



姿勢やアンブシュア(口の形)、指の動きなど、細かいところがリモート授業では確認しづらいです。やはり対面で先生のお手本を確認したいですね。

副島 楽譜通りに演奏できているかどうかはオンラインでも確認できますが、実技指導は対面で行うのが一番です。ソロ・アンサンブル発表会に向けてこれから始まる練習では、みんなが響かせ合っている演奏を作っていくように、感染対策をしっかりとって、工夫しながら進めていけたらと考えています。

ステージで感謝と 音楽の楽しさを伝えたい

及川 本学音楽科の魅力は、努力次第でいろいろなステージが踏めるという点です。人前で演奏することでしか得られないことはたくさんあります。しかし、新型コロナウイルスでその機会がほとんど失

われてしまいました。なんとかそれに代わるものを、と吉村さんに提案したのが、今回の発表会へのエントリです。吉村さんを通じて他専攻の学生に声を掛けてもらい、素晴らしいメンバーが集まってくれました。演奏するのはベートーヴェンの「ピアノと管楽のための五重奏曲」です。とても楽しみです。皆さんの意気込みを聞かせてください。

吉村 私は今回の発表会のオーディションが1年ぶりのステージ演奏でした。今まで一人で練習してきたのでモチベーションの維持が大変でしたが、オーディションの時は近くの練習室からみんなの音が聞こえてきて、「自分ももっと頑張ろう」と思えました。切磋琢磨することの大切さを実感し、本番への意識も高まっています。

三澤 先生方にレッスンしていただいて、曲の良さや、演奏する楽しさを感じているところです。曲が持つ軽快でハッピーな部分を伝えられるように演奏したいです。



学芸学部 音楽科

及川 浩治 教授
副島 謙二 教授

[学芸学部 音楽科のみなさん]

吉村 風香さん (4年・ピアノ専攻)
三澤 真由さん (4年・オーボエ専攻)
岡崎 さくらさん (4年・ホルン専攻)
渡辺 凜奈さん (3年・クラリネット専攻)
大滝 杏里さん (3年・ファゴット専攻)

※取材は9月上旬に行いました。

渡辺 この曲は冒頭部分を合わせるのがとても難しいのですが、何回も合わせていくうちにどんどん上達していくのが分かって嬉しいです。大滝さんとは同級生ですが、先輩方も皆さん優しく、練習時間がとても楽しいです。このメンバーで良い演奏ができればいいと思います。

岡崎 私も同じです。頑張っている仲間が存在が自分のモチベーションにつながっています。今は自分以外の誰かの音を生で聴く機会が貴重なので、しっかりと学んで本番に活かしたいです。



吉村 風香さん



副島 謙二 教授

大滝 私はアンサンブルがすごく好きなので、今回ピアノ五重奏を経験できることがすごく嬉しいです。本番は、聴いてくださる人へ感謝の気持ちを込めて演奏できたらと思います。

及川 三澤さんと大滝さんは、10月3日開催予定の「仙台クラシックフェスティバル」への参加も決まっていますね。

大滝 コロナ禍でいろいろなステージが中止になり、このような演奏会に出るのは初めてなのでとても緊張しています。自主練習でしっかりと完成させて、よい演奏ができればと思います。

三澤 及川先生や副島先生をはじめ、素晴らしい演奏家の方々と一緒にできる貴重な機会なので一杯頑張ります。

コロナ禍だから見えてきた音楽との向き合い方

副島 私自身、ステージがあるということが決して当たり前ではなく、どんなに有り難く、かけがえのないことだったかを実感する毎日です。学生の皆さんはコロナ禍において、改めて音楽というものに向き合い、気づいたことはありませんか。

大滝 自主練習が増えたことで、自分の練習の仕方を見直すきっかけになりました。また、気軽に集まって演奏することができない状況になって改めて、自分には音楽が必要だと強く感じました。早くみんなが普通に音楽を楽しめる世界に戻ってほしいと切に願います。

三澤 自分の音と向き合う時間の中で、自分にとって音楽がなくてはならないものだということも自覚することができました。音楽は人の気持ちを豊かにする力がある

シヨンを保つことは難しい。ましてや学生の皆さんは、思い切り演奏できない限られた環境の中で本当によく頑張っていますよね。そんな状況下で皆さんをどう元気づけられるか、いかに学ぶ機会を与えることができるかを、私たち教員も真剣に考えて取り組んでいます。念願のステージを成功させるべく、みんなで頑張っていましょ。

るので、今度のステージでは音楽の素敵な力をお客様に届けたいと思っています。

渡辺 三澤さんの言う通り、一人で練習すると「なんで上手くできないんだろう」と落ち込みがちになります。私も自粛期間は、好きだから音楽をやっているのに、考え込んで暗い気持ちになったりもしました。ですが、そんな中で自分を元気づけてくれたのもまた、音楽でした。動画などでさまざまな音楽に触れるうちに、「どうしたらもっと音楽を楽しめるのか」を考え、取り組めるようになりました。

吉村 私は自粛中、よく散歩をしているのですが、及川先生のピアノ演奏を聴きながら歩くのが楽しみの一つです。3年生はステージが多い学年だと認識していたので、それらがすべて中止になってしまった残念でしたが、「コロナ禍でもできることはたくさんあるんだ」と勇気をいただくのと同時に、音楽の素晴らしさを改めて感じました。



岡崎 演奏する側にとつてはすごく大変な時期ですが、聴く側にとつては幅が広がったと思います。以前は遠方でなかなか行けなかったオーケストラの演奏会も、オンライン配信で気軽に聴けるようになったことが嬉しいです。いい音楽に触れると、元気になれますよね。



岡崎 さくらさん



大滝 杏里さん

開催を予定していた「ソロ・アンサンブル発表会」は無観客のうえ動画収録を行うこととなりました。11月中旬より本学ウェブサイトにて公開いたしますのでぜひご覧ください。



ソロ・アンサンブル発表会本番



ソロ・アンサンブル発表会に向けた練習



仙台クラシックフェスティバルの様相



「日本近代文学を魅力的に読み解く方法」を学ぶ

学芸学部 日本文学科 千葉 幸一郎 教授

作品と向き合い 「魅力的に読む」と

私は高校生時代に安部公房の作品と出会ったことがきっかけで、日本近代文学を専攻するに至りました。現在、ゼミでは近代日本の小説を読み進めています。前任の先生から引き継いで、今年度の4年生とは谷崎潤一郎の作品を読んでいます。3年生以下には太宰治など好きな作家・作品を選んでもらうようにしています。まずは作品をしっかりと読み込み、作品に関する先行研究を一通り確認すること。それらを踏まえ、さらに一歩でも半歩でも踏み込んで、自分なりの考えや解釈を突き詰めていく、という授業を行っています。

以前は小説を読む時、作家が何を考え、何を語ろうとしたのか、という解釈コードで読むことが主流だったと思います。今はひとまず作品そのもの、その向き合うことを学生に伝えていきます。もちろんテキストを妥当に解釈するためには、一定の知識は必要です。しかしあえて作者自身に関する知識は入れずに、フラットな状態で作品と向き合い、「魅力的に読む」ことを大事にしてほしいと思っています。

じっくり文章を読むこと、 書くことを学んでほしい

小説には主人公がいて、読者は主に彼らの視点で読み進めます。でも実は、脇役など別の人物の視点から読むと、全く別の作品に読めることもあります。「今までこう読まれていた小説が、実は全く違う物語なのではないか？」という発見こそが、文学の面白さなのではないかと私は思います。ですから皆さんには、



「じっくり文章を読み、書くこと」を学んでほしいですね。日本文学科には比較的的文章を書ける学生が多いという印象がありますから、今後も引き続き読むこと、書くことの学びを深めていきたいと思います。また、本学の学生は基本的に真面目なので、欲を言えばもう少し積極性が加わるとなお良いのではないのでしょうか。

人生は一度しかありません。しかし、小説を読むことでいろいろな世界を知り、紙上で疑似体験することができます。ぜひ多くの小説に触れて、人生の幅を広げてください。

Profile

宮城県白石市出身。1996年に東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程修了。1996年～2000年、宮城県泉高等学校教諭。その後、仙台高等専門学校に21年間勤務。2021年4月から現職。○信条は「日日は好日」

私のおすすめ本

砂の女

著者：安部 公房

安部の代表作であり、近代日本文学を代表する傑作の一つといわれています。1964年に映画化もされており、およそ20言語で翻訳されるなど海外でも評価が高い作品です。様々な読み方ができるので、安部公房の入門編としておすすめです。



これが学びのツボ!

分からないことがあったら、まずは自分で調べて、見極める力を養ってください。回り道をすることも時には大切です。自力で分からないことに関しては、遠慮なく私たち教員に頼っていただければと思います。



「理論と実践を両立し、生きた経営学」を学ぶ

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 佐藤 千洋 助教

学問への
いざない

地域の企業と連携し 経営の現場で実践的に学ぶ

私は大学院修士課程を修了後、大手電機メーカーに10年ほど勤務しました。その後、私大の法人部門での勤務を経て、国立大学で研究マネジメントに携わり、2020年4月に宮城学院女子大学に着任いたしました。民間企業での経験は、机上の研究活動だけでは決して得ることのできない貴重なものであり、その経験から学生たちにも出来るだけ現場で学んでもらえるよう工夫をしています。ゼミでは、まず企



多様な意見を交換し合い プレゼンテーション能力を培う

また、廃材の活用から派生して、学生たちは企業のSDGsの取り組みに関心を持ったことから、SDGsに対する本学学生の意識に関するアンケート調査を実施し、その結果をパンフレッ

トにまとめるなど、学びの輪を広げています。来月は東北の自治体を訪問し、森林を活かしたSDGsのまちづくりに関するプレゼンとフィールドワークを行う予定です。当ゼミでは、学生たちがプレゼンする機会をととても重要と考えています。情報を収集・分析し、それらをまとめて分かりやすく発表するという一連の流れは、実際に仕事をすることも不可欠な能力と考えるからです。そのため、ゼミ生全員に発言の機会や発表の機会を平等に設け、プレゼン能力を高めるようにしています。多様な意見を聞き、それらを自分の中で整理し、理解することが大切です。

学生の皆さんには、「興味がない」からと言って自ら視野を狭めるのではなく、あらゆることに興味を持ち、考える習慣を身に付けてもらいたいと思います。そうすることで皆さんの将来も自ずと開けるものと確信しています。

Profile

宮城県出身。東北大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。修士課程修了後、大手電機メーカーに勤務。その後、私立大学法人本部勤務。2014年から東北大学研究推進・支援機構URAセンター (University Research Administration Center) 特任助教。2020年4月から現職。○信条は「今、やるべきことをしっかりとやる」

私のおすすめ本

製品開発力：自動車産業の「組織能力」と「競争力」の研究

著：藤本隆宏/キムB.クラーク

日米欧の自動車産業の製品開発組織とパフォーマンスに関する調査データを、比較・分析・整理した一冊。学生にとっては難しいところも多いかもしれませんが、日本の基幹産業である自動車産業の特徴を知る上で非常に参考になると思います。



これが学びのツボ!

「今学んでいることが将来何の役に立つのか」と疑問に思うこともあるでしょうが、役に立たない勉強はありません。いろいろなことに興味を持って、学びをより深めてほしいと思います。

特集

2 オンラインでも盛大に！ 大学祭 2021 10/16・17

コロナ禍でも学内外から多くの方楽しんでいただけるようにという思いを込めて開催した2021年度大学祭。「RESTART」のテーマのもと、学内外から募集した質問に答えるライブ配信企画「宮学Talk」やフォトコンテスト、俳優・杉野遥亮さんのトークショーなどが行われました。大学祭特設サイトは11月中旬まで公開していますので、ぜひご覧ください！



大学祭
実行委員会
集合！



杉野さんに
質問！



配信について
打ち合わせ



飾り付けは
ひとつひとつ
手作り



特集

1 宮城学院女子大学の タグラインが決まりました！

タグラインとは本学の想いや願いを一言で言い表したものです。6/23・7/14の2日間、末光眞希学長を筆頭に教職員がワークショップを行い、私たちが大切にしてきたこと、これから大切にしたいこと、学生の皆さんと共感したい言葉をさがしました。そして与えられたのが「愛のある知性を。」

これから学内外に様々な形で発信していきます。イメージモデルは学友会執行委員長の渡部菜々さん(教育学科幼児教育専攻3年)が務めました。



愛のある知性を。

急激に変化する世の中
これからどうなるのか 誰も答えを教えてくれない。

だからこそ、心に問いを持ちたい。
答えのない問いを問い続ける 勇気と知性を持ちたい。
明日を生きるのは私なのだから。

自分のことをもっと知りたい
あなたのことをもっと知りたい
私が問いを持つのは、あなたと共に生きたいから。

問うことは関心 問うことは愛
それが 私がここで見つけた愛のある知性。

Message

ブランドは「物語」と言われます。私たち宮城学院女子大学も、その135年の歴史の中で紡がれた、たくさんの物語を持っています。でも、それをわずか一行の言葉で表すことができるのだろうか。誰もが最初そう思いました。

それが出来たのです！私たちの出自、歴史、強さ、弱さ、未来、願い、折り…。そうしたものを語り合う中で、私たちはこの言葉に出会いました。タグライン、そしてその説明文(ポディコピーというのだそうです)には「女性」という言葉がいっぱい出てきません。これらは、すべての若い魂に向けられた言葉なのです。

「愛のある知性を。」宮城学院女子大学は、この言葉をこれからずっと大切に育てていきたいと思っています。



末光眞希 学長



ワークショップの様子



撮影の様子

Campus News

授業やサークル、学外活動など、学生たちの活躍や大学の取り組みをレポートします。



現代ビジネス学科石原ゼミ 学長賞受賞

「学長賞」は、2018年度より設置された、課外活動や社会貢献活動において優れた成績や成果を挙げた学生や団体に贈られる賞です。

2021年度春季は、現代ビジネス学科・石原慎士教授のゼミナールが表彰されました。石原ゼミナールが取り組んでいる「南部の堅豆腐プロジェクト」は昨年度、復興庁主催「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2020にて「わきたつ東北賞 東北経済連合会」を受賞しました。「南部の堅豆腐」とは、旧八戸藩と周辺地域（青森県三八地域と岩

手県北地域）に伝わる堅めに造られた豆腐のことで、石原ゼミでは郷土食に欠かすことができない堅豆腐を後世に伝えていくため、豆腐店・百貨店・食品製造事業者・飲食店とともに調査活動やブランドデザインに向けた取り組みを推進しています。

授与式では学生が末光真希学長へプレゼンテーションを行い、商品開発の経緯やプロジェクトの特徴、PRの工夫点などを説明しました。

前ゼミ長を務めた菅原純菜さん（4年）は、「地域の課題に向き合い、声を拾い上げ、



情報を分析し形にしていこう」とはとても貴重な経験でした。

と振り返り、現ゼミ長の箱崎香菜子さん（3年）は「先輩たちの活動を見てきたので、自分たちも頑張らなくてはいけないう気持ちです」と意気込みを話しました。

音楽科学生4名 コンクール入賞

●第11回ヤング・クラリネットイスト コンクール優勝

一般社団法人日本クラリネット協会が主催する当コンクールは、20歳以下の若いクラリネット奏者を対象とした次世代を担う奏者の演奏技術、音楽性を育む事を目的に、1999年より2年毎に開催しています。今夏開催された第11回コンクールにおいて、



音楽科1年・星さくらさん

音楽科1年・星さくらさんが優勝しました。新型コロナウイルスの影響により予選が急遽動画審査となったものの、モチベーションを維持して快挙を成し遂げました。

●第21回シヨパン学生ピアノコンクール in TOHOKU 3名入賞

日本シヨパン協会東北支部主催、駐日ポーランド大使館等が後援の「第21回シヨパン学生ピアノコンクール in TOHOKU」の本選が仙台市で開催され、3名の学生が入賞しました。

大学生の部
奨励賞 音楽科4年・松本るなさん
特級の部
金賞 研究生1年・菊地みほさん
銀賞 音楽科3年・君塚理乃さん
研究生1年の菊地さんは、音楽科1年だった2017年にも大学生の部で金賞を受賞しており、今回は年齢制限のない特級の部の金賞受賞という快挙となりました。

日本文学科九里教授の著書が 第23回小野十三郎賞特別奨励賞を受賞

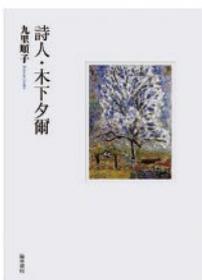
日本文学科・九里順子教授が昨年7月に上梓した『詩人・木下夕爾』（翰林書房）が、第23回小野十三郎賞詩評論書部門の特別奨励賞を受賞しました。広島県出身の詩人・木下夕爾は、家業の薬局を営みながら詩作を続け、50歳で亡くなるまで数々の詩句集を著した人物です。

九里教授の著作について小野十三郎賞選考委員の方々は「地方で詩人・俳人として地道に活動しつづけた木下夕爾に粘り強い研究をつうじて貴重な光を当てた」と評されました。

九里教授に、一番心に残っている木下夕爾の詩句について尋ねたとこ

ろ、「こちらを」紹介いただきました。夕づつや首の短きうまごやし

（九里教授による解説）
暮れ初めた空に輝く金星、一面に咲くクローバーの野原。「首の短き」が効いていますね。愛らしい花の姿と共に、「夕づつ」との対比から、天と地の広がり伝わってきます。



人間文化学科 世界遺産検定2級で好結果

第44回世界遺産検定において、人間文化学科学生の2級認定率が全国平均の48%を大きく上回り、72%という好結果となりました。

人間文化学科のカリキュラムでは、世界遺産検定やTOEICなどの語学検定、観光英語などの資格など、



マスター資格講師による
オンライン講義

自主的な学びの成果も単位になる「個別研修」が設定されており、世界遺産検定2級の取得も単位として認定されます。

学科では世界遺産概説という授業を1年次に開設しており、これまでもマスター資格を所持している方や世界遺産事務局の方によるオンライン講演会を行ってきました。2級・3級の認定者は100名を超えており、12月に開催予定の学内受験ではさらなる快挙が期待されます。

生活文化デザイン学科佐藤ゼミ 定禅寺通を彩る風鈴棚を設置

8月20日から9月7日まで開催された、定禅寺通の大規模社会実験「JOZENJISTREETSTREAM」では、生活文化デザイン学科・佐藤芳治准教授の都市デザインゼミナールによるフォトスポット「風鈴棚」が設置されました。NHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」で話題になった木製の組み立てキット「組手仕(くでじゅう)」に100個の風鈴が下げられ、青色のグラデーションで揃えられた短冊が目にも耳にも涼しさを届けていました。

期間中、新型コロナウイルス

感染症の拡大



につき宮城県が緊急事態宣言対象地域となったため、当初予定していたイベントや調査活動が行えなくなり、唯一実施できたのがこのフォトスポット企画です。リーダーを務めた石澤奈々さん(3年)は、「一番工夫した点は、けやき並木と調和する短冊の色合いです。実施できなかった企画の分まで、みんなで協力して取り組むことができました」と話しました。

東日本大震災から10年 復興応援ソング プロジェクト

東日本大震災から10年を迎えるにあたり発足した東北放送の復興応援企画「tbc復興応援ソングプロジェクト」は、シンガーソングライター・坂本サトルさんや東北にゆかりのあるミュージシャンの力で復興の後押しとなる応援歌を制作するというものです。

プロジェクトでは、歌詞作りの要素として、宮城・岩手・福島の沿岸部出身の本学学生の震災体験や現在の想いを坂本さんがヒアリングする機会が持たれました。学生たちは震災当時小学生。各地の避難所で支援を行っていた坂本さんは、「子どもたちが希望」と感じたそうです。その子どもたちが社会に出る年頃になり、改めて10年の歳月に圧倒されると話していました。

完成した復興応援ソング「10年後の僕ら」のミュージックビデオはtbcの特設サイトでご覧いただけます。強さと優しさ、そして学生たちの想いを乗せた楽曲です。ぜひご視聴ください。



ミュージックビデオの1コマ



「10年後の僕ら」特設サイト

MGILAC 新プロジェクト始動

学生の自主活動をサポートする「宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター」(MGILAC)は、地域と連携した実践的な学修機会・社会貢献の場です。今年度は国際支援活動やボランティアなど20のプロジェクトが学生主体で運営され、10年以上受け継がれているプロジェクトや、地域から高い評価を頂いている団体もあります。



活動を紹介する
桜ヶ丘古文書
プロジェクト

今年度は新たに5つのプロジェクトが立ち上がりました。食から地球環境問題を考える「Foodsion」、地域の文化財の保全活動に取り組む「桜ヶ丘古文書プロジェクト」、児童養護施設で生活支援や学習支援を行う「ひまわり会」と「小百合園ボランティア」、学校資料の調査や保全作業を行う「蒲公英倶楽部(たんぽぼくらぶ)」です。

学生たちの「やってみたい!」を後押しするMGILAC。今後の活動にご注目ください。

私は主に官公庁を担当し、お昼休みの時間に営業活動へ伺っています。毎日通うことで皆さんに顔を覚えていただき、普段の何気ない会話からご提案につながることもあります。訪問資料の準備や請求書の作成、ミーティングといった社内業務のほか、夕方にアポイントがとれた場合は、再びお客さまのところへ伺うこともあります。

現在の仕事内容を教えてください。

就職活動を始めた当初は不動産業界ばかり見ていたのですが、その隣接業界である金融業界にも興味を湧かせ、説明会に足を運んだことがきっかけです。先輩が就活について聞いていた私の話を親身になって聞いてくださったことや、選考中もこちらの意思を尊重してくれたことなどが決め手となり、人を大切にする会社だという確信が持てました。

今の会社に就職を決めたきっかけは？

お客さまからの「ありがとう」を大切に
キャリアを重ねていきたい

第一生命保険株式会社
仙台総合支社
仙台コンサルティング営業室
仙台第五オフィス
行川 詩乃さん



行川さんの所属するオフィスのフロアは9割が女性社員。「細やかな気遣いはこの環境ならではの、勉強になります」。



現代ビジネス学科1期生の行川さん。「経済やビジネスへの関心はもちろん、将来しっかり働いていきたいと思って選んだ進路でした」。



営業活動に欠かせない商品説明ツールと、お客様とのやりとりや気づきを記録している「活動手帳」。

仕事のやりがいは
どんなところですか？

保険に関しては「よくわからない」と感じている方が多いので、ご説明した時に「こういう仕組みだったんだ。教えてくれてありがとう」と言っていたり、お客さまに最適なプランをご提案できた時は嬉しく思います。

最も印象に残っている出来事は？

やはり、初めてお客様からご契約をいただいたことですね。当時、他の同期が続々と初契約を決めていく中で、私はなかなか成果を出すことができませんでしたが、地道に関係性を構築したことで、個人年金のご契約をいただくことができました。頑張ればいつか必ず実を結ぶ、ということを強く感じた出来事でした。今では営業先の方々から「ゆっきー」と愛称で呼んでいただいています。

学生時代の学びや経験で
生かされていることはありますか？

ゼミでは主に国際経済学を学んで

Life Professionals

生命保険のプロフェッショナルとして、
お客さまのまいにちを支えていく

おり、貿易関係への興味もあって輸入食品店でアルバイトをしていました。コーヒーマシンの試飲販売を担当していても多くのお客さまに興味を持っていただけるよう、恥ずかしがらず積極的にお声がけする度胸が身に付きました。今の営業活動に活かされていると思います。また授業の一環で、タイで民芸品などの買い付けも体験しました。もともと引っこ込み思案なタイプでしたが、学生時代のさまざまな体験が変わるきっかけになったと思います。

これからの目標は？

当社は産休や育休がしっかり取得でき、職場復帰もしやすい会社なので、ライフステージが変わってもずっと働き続けたいです。また、営業活動を裏で支える部署にも興味があるので、そういった機会をいただけるなら、ぜひチャレンジしたいと思っています。

Profile 行川 詩乃さん

岩手県盛岡市出身。盛岡北高等学校卒業。2020年3月宮城学院女子大学現代ビジネス学科第1期生として卒業。同年4月から第一生命保険株式会社に入社。仙台総合支社で保険商品の営業活動やライフコンサルティング業務に従事。